

# 「明るい未来を実現するために」

西中学校 3年 井上 凜花

ここ数年、新聞やテレビのニュースを、目にしたり耳にしたりする中で、とても胸が苦しくなるものがあります。

それは、おじいさんやおばあさんが自分の奥さんや旦那さんを殺してしまったというニュースです。子どもが年老いた自分の親を殺してしまうという事件もあります。

私は最初、「どうして何十年も一緒に暮らした大切な家族を殺してしまうんだろう」と不思議に思っていました。だから、このニュースについて母に尋ねました。すると母は、

「大好きな奥さんや旦那さんでも、1人でずっと介護していて、疲れて、もう限界がきてしまったんじゃないかな？」

と言ったのです。私ははっとしました。同時に想像して、悲しくなりました。

そうです。その背景には「老老介護」という問題があったのです。いつもいろんな事件やニュースを目にするたびに、母に聞いたり、母と話し合ったりするのですが、この老老介護についても、母と

「この夫婦には子どもはいなかったのかな。」

「いたとしても遠く離れて住んでいたのかな。」

「近所に相談したり頼れる人はいなかったのか。」

と様々なことを話しました。もし、助け合える家族がいたら、このような悲しい事件は起こらなかったかもしれません。大変な介護も1人で抱え込まずに、協力してくれる人がいたら、状況は変わっていたかもしれません。

私の祖父母も、私が生まれる前にひいおばあちゃんの介護をしていたと聞いたことがあります。それはそれはとても大変だったようです。

しかし、調べてみると自治体には相談できる窓口があったり介護サービスを受けられるところがあるみたいです。ただ、それを知らなかったり、うまく利用できずに1人で抱え込んでしまっている人も多くいるようです。誰だって大好きな奥さんや旦那さんを殺したくないはずです。でも、1日中介護をして、しかもそれが何年も続いていくとストレスや疲労が限界に達してしまい、つらくて苦しくてどうしようもなくてこんな悲しい事件を起こしてしまうのだと私は考えました。

これからは今よりもっと少子高齢化が進みます。こんな悲しい事件が起こらないようにするためには、どこでも誰でも相談できる窓口があることやサービスが受けられることを幅広く知ってほしいです。そして気軽に利用できる社会になってほしいと思います。介護が理由の悲しい事件がなくなり、誰もが苦しむことのない明るい未来を私たちが作っていくべきだと思います。